

主な内容

特集 1~2
自治会・町内会活動

トピックス 3~4
●子ども・ひとり親家庭等・
重度障害者医療費支給制度
●助成金・補助金などをご活用ください
など

まちがいファイブ 5

情報ステーション 6~11
*最終ページは人口データと若松区の情報

特集 自治会・町内会活動

あらためて考える、自治会・町内会の魅力

「活動内容がわからない」「活動が大変そう」...。自治会・町内会について聞かれる声です。しかし、その一方で災害のときなどは自治会・町内会が持つ地域のつながりが大事といった声も聞かれます。

市内には約2800の自治会・町内会があり、日々、自分たちの手で安全・安心な住みよいまちをつくり、維持する、地道ではあるけれども大切な活動を行っています。今号では、新たなカタチ「マンション町内会」の地域活動などをご紹介します。

私たち、町内会をつくりました

「お互いさま」の関係づくりから、日々の安心と暮らしやすさが広がります。

～マンションにおける町内会活動～

町内会に参加するには、住んでいる地域の町内会に入ることが一般的ですが、戸数が多い分譲マンションなどでは、集合住宅の建物単位で町内会を立ち上げるケースもあります。小倉南区の「ブランシェ企救丘町内会」もその一つ。町内会発足の経緯や活動について、会長の古賀さんにお話を伺いました。

ブランシェ企救丘
町内会長 古賀 恭子さん



町内会発足のきっかけは？

分譲開始後に入居したマンションは、30～40代の子育て世帯が多いマンションでした。会合に参加したところ、200戸以上と戸数が多いこともあって、「マンションで新しく町内会を立ち上げてください」と言われ、その会合に出ていた数人が町内会準備委員会として活動を始めました。

具体的な活動内容は？

町内会を一からつくるのは初めての経験。校区自治会や市の担当者の方に教わりながら、1年をかけて準備しました。設立の目的は、まずは顔見知りを増やすこと。以前住んでいた地域でも、町内会活動を通じて知人の輪が広がり、ご近所さんが子どもたちを知っている安心感がありました。そこで、マンションの住民が参加しやすい親睦行事やごみ拾いイベントなどを実施。活動報告などを知らせる広報紙「ブランシェだより」も年に数回発行しています。

町内会を立ち上げて「よかった!」と思えることは？

住民どうしのつながりが深まったことです。校区の球技大会参加をきっかけにつくったソフトボールチームや、デイキャンプ、年末のもちつき大会(近年はコロナ禍で自粛)は好評です。子どもたちの歓声や「知り合いが増えました」といった話を聞くと、マンション町内会をつくってよかったなと思いますね。

また、マンション町内会として参加する校区自治会の会合や行事を通じて地域の人脈が広がりました。おかげで今では、困ったときに相

談に乗ってもらえる知り合いが地域に何人もできました。マンション内だけでなく地域にも、会えば挨拶を交わせる「お互いさま」の関係が広がり、日々生活していく上での安心感が高まりました。

一方、組分けをしておらず組長という役職もなかったので、役員や一部の会員に負担が集中していることが課題になりました。そこで2年前に、輪番制の実行委員制度を導入。気軽に参加できるような改革にも取り組みました。今後、役を引き受けてくれる人が増えてスムーズな運営につながればと考えています。



今後、力を入れたいことは？

熊本地震では、自治会・町内会の防災活動が盛んな地域ほど、避難所でのトラブルが少なかったそうです。親睦も大切ですが、いざという時に助け合える信頼関係を育てることも、自治会・町内会活動の大きな役割です。今後は今まで以上に、防災・防犯関連の取り組みに力を入れていきたいと考えています。



市はマンションの町内会づくりを支援しています。

「分譲マンションで町内会を立ち上げるためにはどうしたらいいの?」といったお悩みを解消するため、市では、専門家を派遣しています。詳しくは、お住まいの区のコミュニティ支援課へ。

特集は2ページに続きます

市長からのメッセージ 自治会・町内会は、子どもや高齢者の見守り、災害時の助け合い、まちの美化活動、伝統行事の継承など、さまざまな地域活動の中心的な役割を担っています。人とのつながりの大切さを感じる今だからこそ、自治会・町内会の活動を通じて、住民同士の支え合いの輪が広がってほしいと願っています。北九州市長 北橋 健治